©日本経済新聞社2013 （昭和48年10月6日第三種郵便物認可） 日刊 第10588号

産業新聞
BUSINESS DAILY

2013年(平成25年)
3月28日
木曜日

www.nikkei.com/tech/ssbiz/ ■購読のお申し込み 0120-21-4946 http://www.nikkei4946.com

これからは、
空を見上げて生きていこう。
太陽電池をつくる産業ガスも、エアウォーター
www.awi.co.jp

スマホかざすと翻訳文

PIJIN、13言語自動選択

看板や印刷物 QRコード活用

翻訳ベンチャーのPIJIN（東京・中央）はQRコード（2次元バーコード）を使い、看板や印刷物の文章を13カ国の言語で読めるようにするサービスを月内に始める。スマートフォン（スマホ）でQRコードを読み取ると、ブラウザーにスマホの言語設定に合致した翻訳文を表示する。顧客は割り当てられたQRコードを印刷して張るだけで多言語対応ができる。外国人観光客を受け入れる自治体などに売り込む。

看板やポスターなどに張ったQRコードをスマホで読み取ると、翻訳文を載せたサイトにつながる（大阪市のホテル近畿）

新サービス名は「QRトランスレーター」。PIJINの専用サイトに文章を入力して、翻訳先の言語を選ぶとQRコードが発行される。顧客はQRコードをプリンターなどで印刷、看板などに張って使う。

利用者がスマホのカメラでQRコードを読み取ると、そのスマホの設定言語に合った翻訳文が載っているサイトにつながる仕組み。利用者は専用アプリを導入する必要はなく、QRコードの読み取りソフトとブラウザーがあれば、翻訳文が読める。日本、英語、中国語を含む13カ国の言語に対応する。

簡単な単語であれば翻訳ソフトによる機械翻訳で1分以内にQRコードを発行する。文章などの場合は翻訳ソフトによる変換の後、翻訳家などの専門家にネット経由で外注して翻訳する。この場合も原則24時間以内に翻訳を完了しQRコードを発行する。文章は何度でも修正でき、その都度QRコードを発行できる。翻訳文を載せたサイト上に写真やイラストも掲示可能だ。

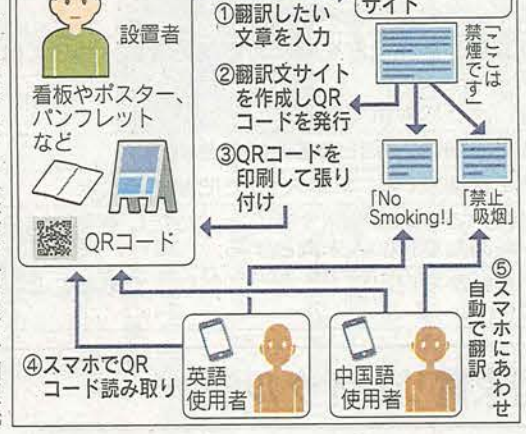
サービスの認知向上と普及を優先して機械翻訳なら当面、無料とする。人手による翻訳なら一文字約16円。利用数が増えたら一部サービスを有料化したり、翻訳文を載せたサイトに広告を掲載したりして収益源とする。まず9月までの半年間で1万件のQRコードの発行を目指す。

既に徳島県庁や大阪市のホテル近畿などが試験的に採用し、ポスターなどにQRコードを掲示している。PIJINは主な顧客として自治体のほか、外国人学生を受け入れる大学、海外で商品を販売する企業など幅広い需要を見込んでいる。米欧や中国、韓国などでのサービスの利用拡大も目指す。

看板やパンフレットに英語や中国語の翻訳文を併記する場合、スペースの制限があったり、文章の修正に手間がかかったりする課題があった。新サービスはQRコードを印刷した紙やシールを張るだけですむ。

競合サービスではスマホをかざして情報を読み取る非接触通信規格「NFC」などがある。ただ様々な言語に自動で翻訳するものは珍しい。

PIJINは関西大学大学院発の学生ベンチャー企業の構想をもとに、外国語ウェブサイト制作のエクスポート・ジャパン（大阪市）など複数の企業が出資して2011年に設立した。



障害者の就労支援システム

内田洋行が開発

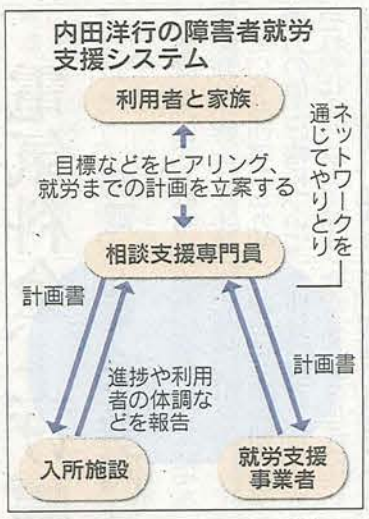
新法対応

内田洋行は4月1日施行の「障害者総合支援法」に対応し、就労支援に関わる担当者らが効率良く情報共有できるシステム

情報共有

当者、全体を管理する「相談支援専門員」などが、障害者や業務に関する情報を共有できる。相談支援専門員を包える「相談支援事業者や在宅介護事業者」などから職員の負担を軽減できるシステムとして提案する。

障害者の就労支援は、就労支援事業者や在宅介護事業者、全体の計画は専門員が練る仕組みだ。



て進める。全体の計画は門員が練る仕組みだ。

日程の大枠をデータベースに登録する。これに商品の袋詰めや食品の下ごしらえなどの就労訓練や日常の介護を担当する各事業者が詳細な計画を盛り込む。計画の進捗状況や本人の体調などの情報を随時更新。相談員はネットワークを通じてこれを参照し、計画の検証・見直しといった業務を適なることがあり頻繁ごと本刊。2013年度

ービスに対し、各担当部署の責任者が電子印鑑で承認を下せる機能も備えた。また施設内の他の職員のスケジュールや研修といった情報もシステム上で管理する。

従来こうした業務は、同じ社会福祉法人が運営する訓練・介護施設であっても、書類の形式が異なるなどの理由があり、具合や本人の体調などの情報が数日遅れで相談員に届くことも多かった。

通所型の事業者向けシステムの導入価格は端末3台で126万円（端末

新製品物語

トクホのコーヒー

花王、ヘルシアに新顔

「ヘルシアコーヒー」を発表する花王の沢田社長（27日、東京都港区）

花王は27日、特定保健用食品（トクホ）のコーヒー「ヘルシアコーヒー」を4月4日に発売すると発表した。独自のろ過製法でコーヒー豆に含まれるポリフェノール「コーヒークロロゲン酸」の機能を引き出し、脂肪を消費しやすくする効果があるという。東京・六本木で開いた発表会で沢田道隆社長は「コーヒーの愛飲者に健康改善の価値を提供する」と力を込めた。

（関連記事8面に）

缶入りで内容量は185㍉。同量のレギュラーコーヒーの2倍である1本当たり2ケのコーヒークロロを含む。1日1ケけることで無理肪をケアできる。

味は「無糖ブと「微糖ミルク類で、メーカー価格は149円ニエンスストアなど小売店を売する。12月末月間の出荷数量ス（1ケ当たり目指す。

今後品ぞろえ検討。ヘルシア全体で現在年間億円の販売額を目標として50（沢田社長）に標を掲げる。

これがJA三井リース
例えば、再生可能エネルギー。
私たちはSolutionをご提供いたします。
太陽光
風力
バイオマス
水力

ア版から

滅まで何年？

初めて電子書籍端末っと電子書籍端末で一。日本ではそんが、世界的に電子書でに縮小に向かって“寿命”はあと何年いた。

業新聞onlineに全文掲載
.com/tech/ssbiz/）